300616　第１回学校評議員会資料

経営視点１

確かな学力の向上

□取組指標

○　年間３５回以上のとことんタイム（放課後補習教室）の実施

○　校内研究授業年間６回以上の実施

○　教育課題実践推進校説明会開催　１月１８日

■成果指標

○東京ベーシックドリル診断テストにおける平均正答率 50 未満児童を 10%以内に減少

○全国学力・学習状況調査及び都学力調査→全国・都平均以上

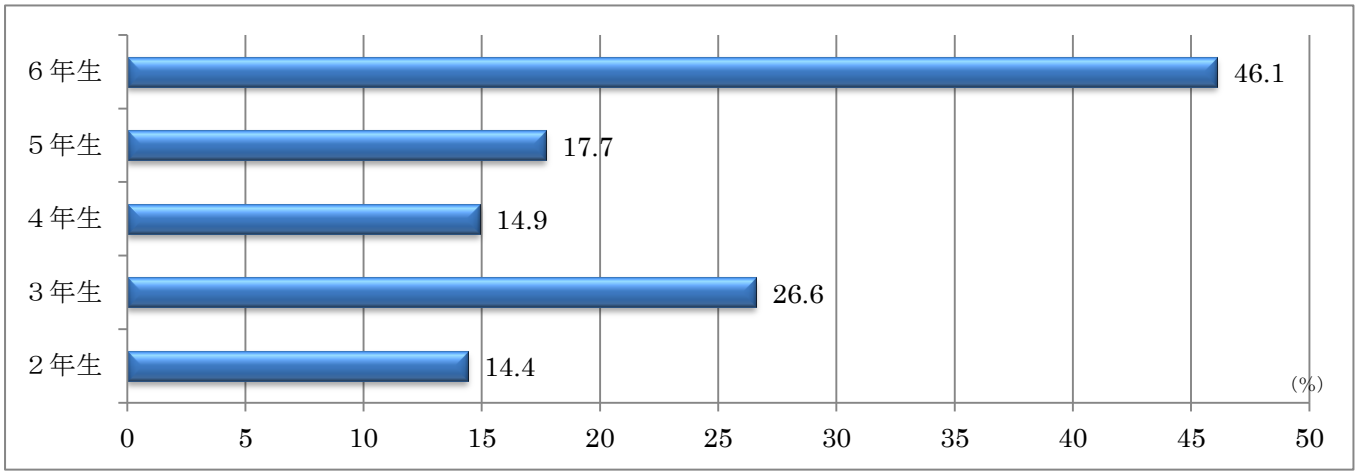
○別途定めた校内研究にかかわるアンケート調査年２回の数値向上

現状分析と具体的改善の方策

１　東京ベーシックドリル診断テストＡ　４月実施より

東京ベーシックドリルとは・・・
小学校１年生から中学校１年生までの国語・算数・数学、小学校 3、4 年生の社会・理科、中学校１年生の英語の基礎的な学習内容及び知識を身に付けるためのドリルです。過年度の学習内容の定着を把握し、適切な指導を行うために東京ベーシックドリルテストを実施しています。

＜各学年の正答率５０%未満児童の割合＞



[課題及び改善の方策]

成果指標における「平均正答率 50 未満児童を 10%以内に減少」においては、学年よっては上方修正する必要性があると考えます。しかし、第１回目であることを考慮すると、第２回目のテストが今回と同等の結果を踏まえて、今後の成果指標を設定することが懸命であると考えます。

また、高学年になると学習内容が難しくなり、正答率５０%未満児童の割合が多くなったと考えます。しかしながら、昨年度６年生の結果も、今回と似た結果でした。単元別に東京ベーシックドリルを活用してとことんタイムを実施したり、学校応援団の方に応援を頂いたりして、自信をもって学年の算数の授業に参加できるようにしていく必要があると考えます。

２　全国学力・学習状況調査及び都学力調査

４月に６年生に対し全国学力調査が実施されました。また、７月には５年生に対し、都学力調査が実施されます。今年度、全国と都の平均以上を成果指標として設定しました。全国学力調査の結果が分かり次第、本校の学力向上委員会で分析を行い、児童の実態に合った手立てを計画・実行していきます。学力調査に関しては、結果、分析、今後の対策について本校ホームページに掲載します。

[課題及び改善の方策]

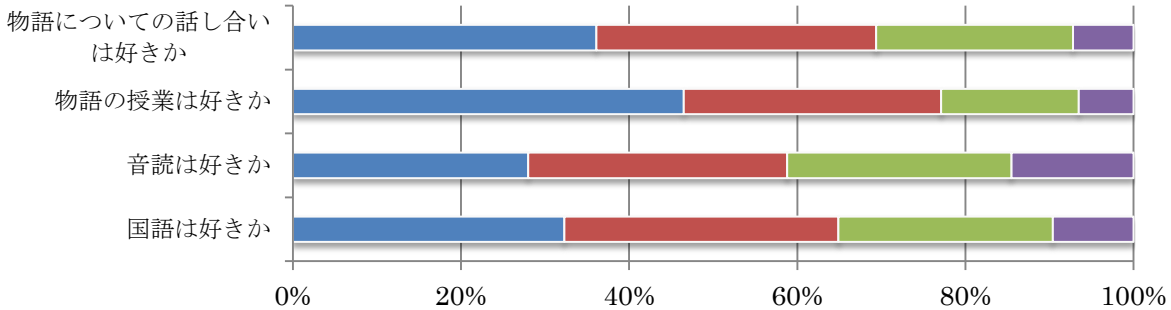
現在、本校では、新学習指導要領に沿った授業に取り組んでいます。国語では、児童の交流を基にした深い学びについて、また算数では問題解決学習に全校で取り組んでいます。このことで自主的に学びに向かう姿勢や、友達との交流で考えを深めたり、広げたりすることができる児童の育成を目指しています。

特に算数では、ただ答えを求めるのではなく、「なぜそうなるのか」、「もっと便利な方法はないか」など、数学的な考え方の育成を目指しています。友達との交流を通して、「その方法の方が便利だね」、「その考え方を教えて」など、一つの問題を通して、互いに学び合う姿勢が少しずつ定着してきました。今後も、児童の主体的に学ぶことのできる授業について、学力向上委員会を柱として話し合い、実践していきます。

３　校内研究授業実践及び国語科意識調査

本年度、本校は「教育課題実践推進校説明会」を開催します。昨年度より、交流を基とした国語の授業実践を行ってきました。そこで、児童意識調査の中に国語に関する設問を設け、児童の国語の授業に対する実態を把握しました。

＜国語科に関連する意識調査項目の結果＞



	国語は好きか	音読は好きか	物語の授業は好きか	物語についての話し合いは好きか
あてはまる	32.3	28	46.5	36.1
だいたいあてはまる	32.6	30.8	30.6	33.3
あまりあてはまらない	25.5	26.7	16.4	23.4
あてはまらない	9.6	14.5	6.5	7.2

[課題及び改善の方策]

各設問について、約６０％以上の児童が肯定的な考えをもっています。特に昨年度から物語を題材とした授業に取り組んできた成果が、「物語についての話し合いは好きか」「物語の授業は好きか」という設問の回答に表れています。このことは、今年度の研究発表に向けプラスの材料としてとらえて

います。また、今年度の研究授業においても、元気に交流する姿が学年関係なく多く見られます。

しかしながら、音読に関しての肯定的な回答が若干少ないことが分かります。特に高学年になるにつれて音読に対する肯定的な回答が減少する傾向にあります。音読は物語のあらすじを把握し、読みを深めるためには不可欠な学習活動です。学校でも毎週水曜日の朝学習の時間に音読に取り組むなど、個々が意欲的に交流に参加するために、音読を推進しています。

[校内研究取組の概要]　江戸川区教育委員会　教育課題実践推進校

研究主題

子どもが自ら読み、自ら考え、自ら想いを広げる授業
～「主体的・対話的で深い学び」を成立させる学習過程の研究～

■児童に身に付けさせたい力

課題追究の話し合いを通じて友達の意見を理解しながら、自分の思いや考えをつくりかえていく力

■研究の視点

（主体的な学び）

〇読者としての「想い」を掘り起こして「問い」を立てる。　〇自分の〈読み〉をつくる

（対話的な学び）

〇信頼関係を基にした話し合い　〇他者理解

（深い学び）

〇初読～再読の学習過程

〇メタ認知活動の設定（友達の〈読み〉を視点にして自分の〈読み〉を振り返り、改めて自分の〈読み〉をつくる）

■講師　東京学芸大学名誉教授・元早稲田大学教授　田近洵一先生

■主な研究日程等

日	内容
４月１１日（水）	年度計画検討、教材・授業者選定、「夕鶴」を使った授業研究の視点を研修
４月２７日（金）	第１回授業研究　４年「白いぼうし」授業者　菅原知紘教諭
５月１７日（木）	第２回授業研究　３年「のらねこ」　授業者　野村哲也教諭
５月３０日（水）	第３回授業研究　５，６年「竜」　授業者　渡邉　愛教諭、小佐井英樹主幹教諭 授業者　下山美佳教諭
６月　７日（木）	第４回授業研究　２年「きつねのおきゃくさま」授業者　遠山信愛義教諭
７月　４日（水）	第５回授業研究　１年「おおきなかぶ」授業者　吉田未希主任教諭、加倉井希代衣教諭
７月２３日（月）	集中教材研究日（全日）
９月　５日（水）	研究発表当日の指導案相談日（講師　田近先生）
１０月１０日（水）	第７回授業研究
１１月５日（月）	第８回授業研究
１２月５日（水）	第９回授業研究
１月１８日（金）	教育課題実践推進校　全学級授業公開・説明会

各回２学年の研究授業を実施
授業者は１学期に授業者を務めなかった教員

経営視点２

体力の向上

□取組指標

○　年間３５回のゆうゆうタイムの実施

○　新学習指導要領に則った、体育課授業実践

■成果指標

○　「運動が好き」かつ「体育が楽しい」と回答する割合を区平均以上に変容させる。

○　児童意識調査による数値向上（年間推移比較）

○　体力合計点の全学年全国平均以上

現状分析と具体的改善の方策

１　「運動が好き」かつ「体育が楽しい」と回答する割合を区平均以上に変容

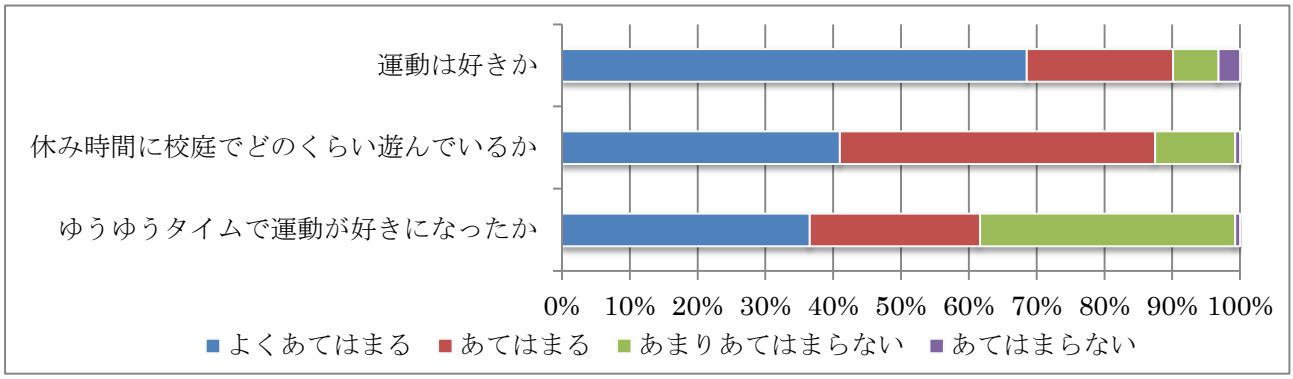
６月４日（月）に全校体力テストを実施しました。いろいろな種目の測定を行いますが、同時に体育に関する意識や日常の運動時間に関する調査も行いました。この調査は、東京都全体の数値も把握でき、平井小の児童の実態が把握できます。

[課題及び改善の方策]

今年度も結果が分かり次第、本校の体力向上委員会で結果を分析し、今後の手立てを考え、昨年同様にホームページに掲載いたします。

２　児童意識調査による数値向上（年間推移比較）

本年度から始めた児童意識調査の中に運動に関する設問を設け、昨年度の「ゆうゆうタイム」の成果を把握し、体力向上委員会で「ゆうゆうタイム」をより良くするための話し合いを行いました。結果は以下の通りです



[課題及び改善の方策]

設問１・２共に約９０％の肯定的な考えをもっていることが分かりました。もともと体を動かすことを好む児童が多く、各学年でもあまり違いはありません。特に、「ゆうゆうタイム」では、全校児童が楽しみながら運動を楽しむ姿が多く見られます。

さらに運動を好きになることができるように、本年度から、縦割り班で実施しています。事前に６

年生が下級生に教えるために遊びのルールを学び、当日は分かりやすく下級生に教えることで、より児童が主体的に運動をする姿勢を養わせたいという趣旨があります。低学年は静かに説明を聞き、高学年は低学年をサポートする姿があります。今年度の「ゆうゆうタイム」は児童が運営するという、さらにレベルアップした実践を行っています。

３　体力合計点の全学年全国平均以上

前述した通り、体力テストが実施されました。体力テストの結果は日々の授業での成果と、運動の成果であると考えます。したがって、児童がもつ内在的な運動に対する関心を高め、運動を日常的に、また継続して行うことができる環境作りを行っていく必要があると考えました。

[課題及び改善の方策]

そのためには、日々の体育の授業力の向上が不可欠であると考えます。そのためには、個々の職員が様々な研修会に参加し、より効果的な体育の授業について触れたり、いろいろな参考文献を参考にしたりなど、常に自己研鑽に努めることが大切です。

そこで、体力向上委員会における実技研修を年間２～３回実施し、平井小学校全体の体育の授業力の底上げを目指します。新学習指導要領も実施されますので、新学習指導要領に則った体育の授業を、全職員が実践できるようにしていきます。

ゆうゆうタイムの様子

同学年・同学級での運動遊び
～運動を楽しむ段階～

異学年・異学級での運動遊び
～工夫して運動を楽しむ段階～
プレイリーダーを育む段階

経営視点３

読書科の推進

□取組指標

〇朝読書の時間（15 分間）１単位時間（45 分間）による年間 35 時間の授業実施

〇読書科，図書館活用に関わる研修会　年２回の実施

〇読書科ノートを活用した授業実践

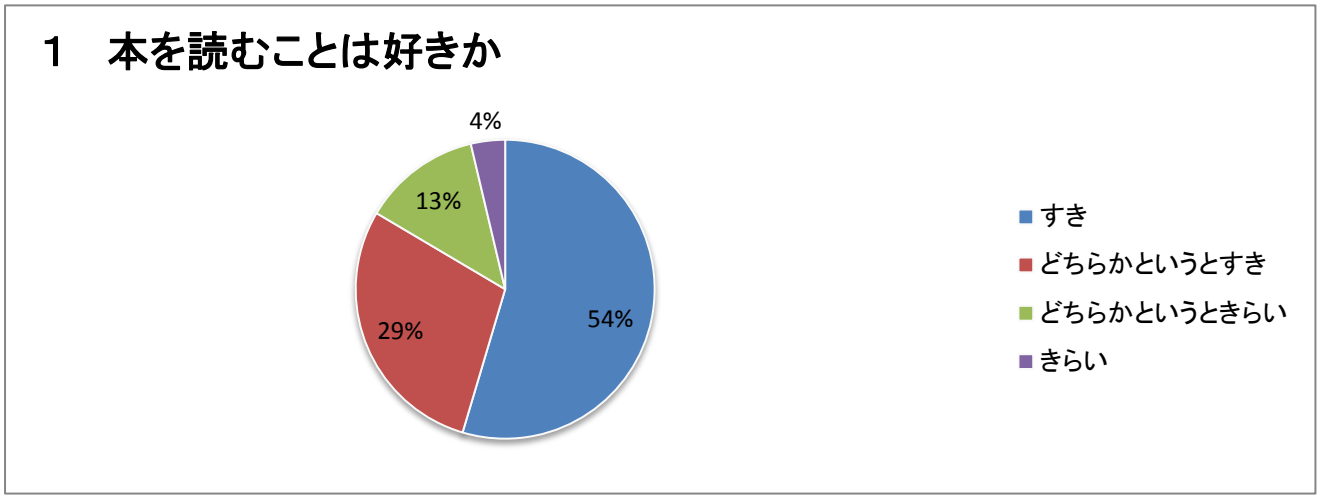
■成果指標

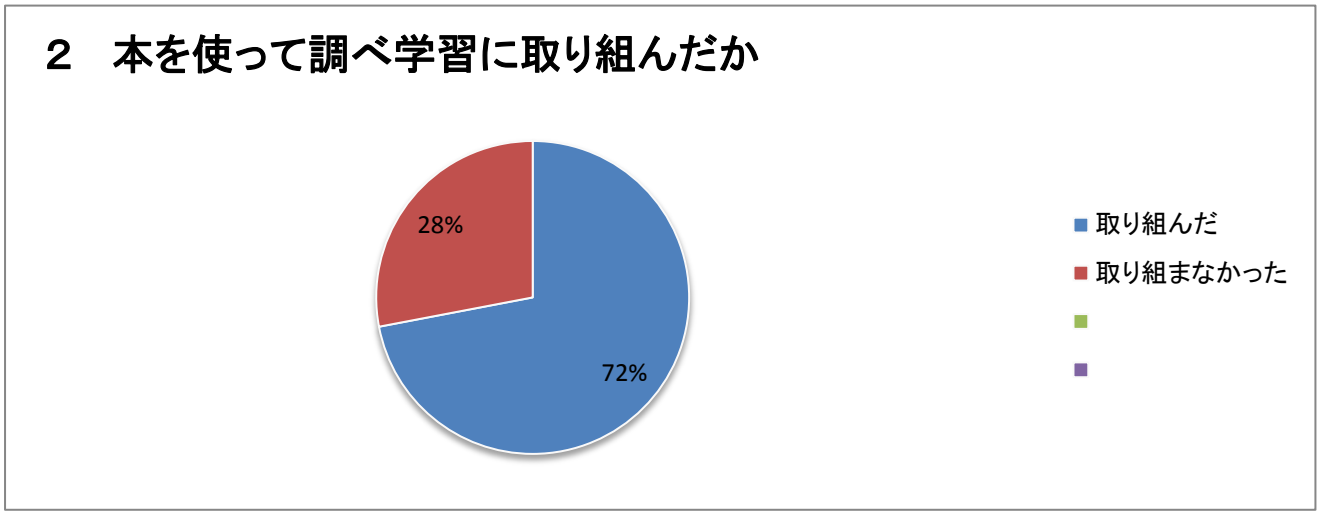
〇「課題を立てて、情報を集め、発表する学習を行ったか」の数値向上（４月―１２月）

〇「自分の考えを発表するのが得意」と回答する児童の数値向上（４月―１２月）

現状分析と具体的改善の方策

１　児童意識調査（５月実施）より





３　本を使って調べたことを発表したか

４　調べたことや考えたことを発表することは好きか

[課題及び改善の方策]

成　果　「１　本を読むことが好き」な児童は全体で８割を超えています。朝読書や読み聞かせ、あじさい・どんぐり読書月間など、今までの取り組みが、児童の読書好きの成果へと結びついていると言えます。

課題①　「２　調べ学習に取り組んだ」児童は全体で７割を超えています。ただし、詳しく回数を見てみると、１０回や２０回と積み重ねている児童の割合は少なく、最も多いのは５回程度という回答だということが分かりました。

また、「１　本を読むことが好き」という回答理由も重ねて見てみると、「読むことがすき」「知識が増える」「新しいことを知れる」という選択肢を選んだ児童は多いが、「わからないことを調べることができる」という選択肢を選んだ児童は少ないことが分かります。

以上のことから、本を手に取る機会は多くあっても、調べることを目的とした読書についての実態はまだまだ少ないと言えます。

課題②　「３　調べたことを発表した」児童は全体の４割を切っています。調べ学習には取り組んでいても、発表の場面までにはつながっていないということが分かります。

　また、「４　発表することが好き」な児童も全体の５割しかいません。発表の機会が少ないために、苦手と感じる児童が多いことも考えられます。

改善策　→他教科と読書科をつなげることで、調べ学習に取り組む場面と発表する場面を計画的に設けていきます。読書科ノート等のワークシートを有効活用し、調べることを目的とした読書経験を積ませていきます。また、基本的に、調べたことはそれで終わらずに必ず発表するという学習の流れを作ることで、常に、調べ学習と発表の場がつながるような意識にしていきたいです。回数を積み重ねることで場に慣れることにもつながり、自信が付いたり楽しくなったり、「発表が好き」な意識につながるのではないかと考えます。

　環境的にも改善が必要と考えています。図書室にある本の種類は９類の読み物が多く、調べ学習用の資料となる０～８類の本が少ないと感じています。ここ数年、本校の児童数が増えたことも含め、学習用の本を増やすことが必要だと感じています。調べ学習に適した環境を整えることが必要だと考えます。

２　読書科ノートの活用について

　今年度４月に配布された「読書科ノート」の活用を組織的に進めていく必要があります。「読書科ノート」がどのようなものなのか、どうやって活用していくのか、各学年に配布した後の具体的計画が必要だと考えます。

[課題及び改善の方策]

課題①　全クラス全学級に「読書科ノート」を浸透させることが課題です。読むだけの読書科ではなく、調べたり活用したりする本の使い方のスキルを学べるようにしていくことが必要です。

改善策　→校内で教員向けの研修を行ったり、各学年の実践を紹介し合ったり、まずは教員が使い方を組織全体で学んでいくことが必要です。また、計画的に実施していくためにも、年間計画等を整備し、他教科とのつながりも含めて使用していきたいと考えます。

　また、本を使って調べる学習のきっかけづくりとして『校長先生に挑戦』のコーナーを５月中旬より始めました。校長から毎週の全校朝会の際に身近な疑問を問題として出し、解答用紙に本を使って調べたことをまとめて提出します。提出された解答用紙には校長がコメントを書き入れ、優れた解答と解説を校長室前に掲示しています。さらに解答用紙を提出した全員に「優秀賞」の賞状を手渡しています。

　これまでに出した問題は

①空はなぜ青く見えるのか　②葉っぱはなぜ緑色なのか　③どうしたら速く走れるようになるか

④重い鉄でできた船はなぜ水に浮かぶのか　です。ここまでの述べ解答数平均は４５人です。回を追うごとに提出者数が増えてきています。解答用紙は区が作成した『読書科ノート』をリメイクしたものを使っています。

経営視点４

外国語活動の推進

□取組指標

○　年間指導計画に基づく授業実施

○　小中連携プログラムの作成

○　６年生における『Tokyo Global Gateway』の活用

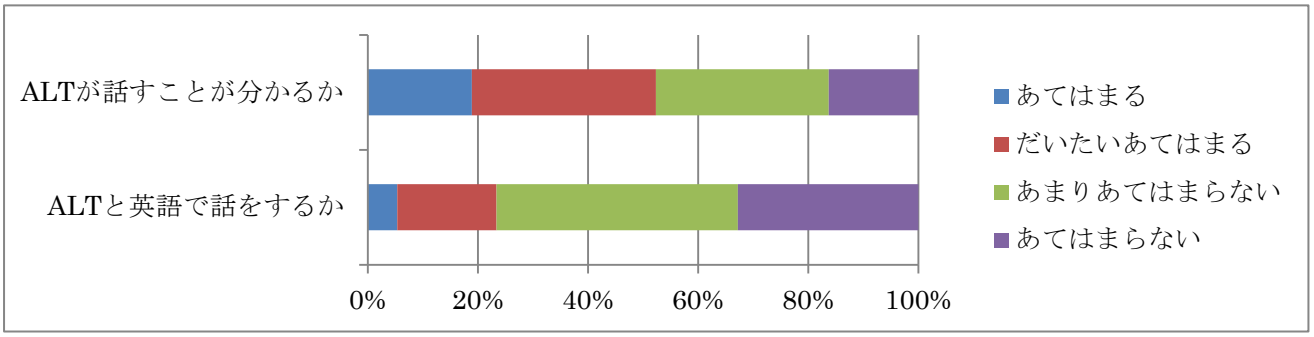
○　５年生における文化交流学習（地域人材の活用）

■成果指標

○　・「ALT の話の内容を理解できるか」、「ALT と話したことがあるか」の数値変化かつ肯定的回答率８割以上

現状分析と具体的改善の方策

１　「ALT の話の内容を理解できるか」、「ALT と話したことがあるか」の数値変化かつ肯定的回答率８割以上



[課題及び改善の方策]

両設問共に、肯定的回答が低いことが分かります。特に、外国人 ALT と英語を使って話をすることは、児童にとって緊張をすることかもしれません。また、外国人 ALT が話すことが理解できるという児童は約５０％という結果から、英語を使ってのコミュニケーションに対する苦手意識があるのだと分析しました。

そこで、外国人や外国語に触れ合う機会を設け、外国語に対する苦手意識を取り除いていこうと考えます。６年生では「Tokyo Global Gateway」、５年生は旧平井第二小学校校舎を利用している東北大学 大学院生との文化交流を設定し、体験的な学習機会を設定します。同時に、小中連携プログラムを効果的に活用し、発達段階に沿った外国語教育を施すことで、積極的に外国語に関わる児童の育成を目指していきます。なお、中学校英語科教員が夏季休業期間を利用して外国語の実技研修を行います。

経営視点５

生活指導・健全育成の充実

視点１　児童理解の充実、いじめ等への対応

□取組指標

○　年間２回にわたるＱ－Ｕテストの実施・分析

○　要支援群児童への個別の対応の充実

○　いじめ校内委員会の開催

■成果指標

○Ｑ－Ｕ学級満足度要支援群の半減

○いじめ問題解決率１００％

現状分析と具体的改善の方策

１　第１回Ｑ－Ｕテスト実施

6 月 1 日～14 日の 2 週間の中で実施し、6 月末までに結果を入力し、夏休み中に今後の対策を考える。

２　第２回Ｑ－Ｕテストを実施

11 月中に実施し、手立てが適切であったか考え、同時に対策をさらに考える。

３　第１回生活指導研修会を開催

5 月 24 日に、職員に、スクールカウンセラー、通級学級担任、特別支援専門員を交えた研修会を行い、要支援群児童の共通理解を図りました。

４　第２回生活指導研修会を開催

2 月中に、第１回の研修会と同様に行い、児童の変容と今後の課題を確認し、新年度に引き継ぎを行っていく。

視点２　不登校対策委員会の開催

□取組指標

○　不登校対策委員会の開催

■成果指標

○不登校児童０

現状分析と具体的改善の方策

１　不登校対策委員会をたちあげ

不登校傾向にある児童を確認し、その指導の体制を整え、共通理解を図っています。また、生活指導朝会等で不登校傾向の児童の実態を共通理解する

３　第２回生活指導研修会を開催

2 月中に、不登校気味児童の変容と今後の課題を確認し、新年度に引き継ぎを行っていく。

視点３　ＳＮＳトラブル等への対応
□取組指標
○　江戸川っ子家庭ルール作りの周知徹底を行いワークシート回収率１００％とする
■成果指標
○携帯電話などの使い方について家の人との約束を守っている児童（肯定率９０％以上）
○ネットトラブル発生件数０

現状分析と具体的改善の方策

１　江戸川っ子家庭ルール週間の実施
5 月 14 日～20 日に１回目の江戸川っ子家庭ルール週間を実施しました。担任の方で児童の実態を把握すしていきます。同様に 2 回目（5 月 14 日～20 日）、3 回目（１月８日～１４日）を行い、家庭ルールの徹底を図っていきます。
２　セーフティ教室の実施
6 月 14 日で外部講師（ＬＩＮＥ）によるネットトラブル回避の教室を行い。ネットトラブルの発生件数０を目指していきます。

経営視点６

特別支援教育の推進

□取組指標

○　年間定期開催の校内特別支援委員会の実施

○　学校公開時における特別支援教育の説明会実施

■成果指標

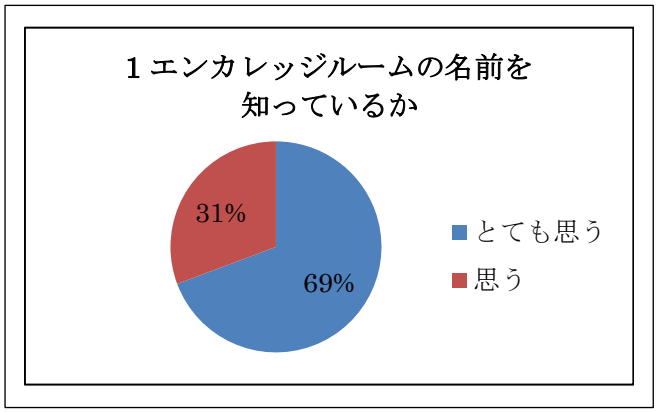
○校内調査

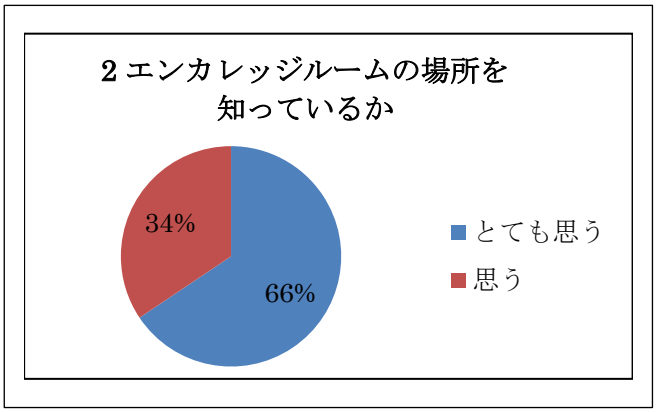
○巡回指導学級の児童の満足度調査

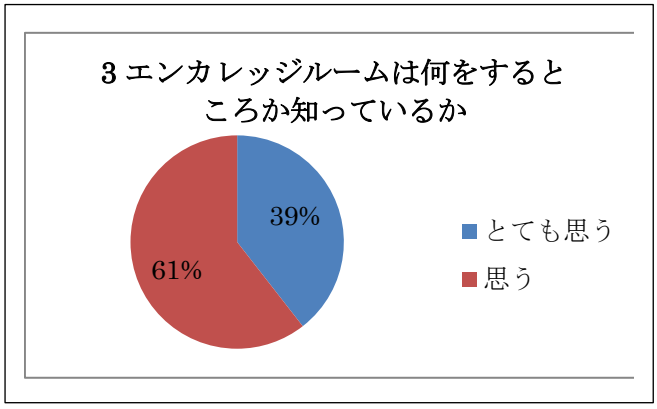
○エンカレッジルームの目的に関する質問理解度１００％

現状分析と具体的改善の方策

【児童意識調査の結果】







エンカレッジルームの名前や場所は知っているけれど、「何をするところか」については知らない児童が多くいたため、学校便りでの掲載や保護者への説明会の実施、児童へのお知らせ（朝会）や掲示物作成について検討していく必要があると考えます。

[課題及び改善の方策]

１　年間定期開催の校内特別支援委員会の実施

・校内判定委員会にかける必要のある児童（その他教室での特別な支援が必要な児童）について情報共有・検討を行います。

・教室内（もしくはエンカレッジルーム）で支援が必要な児童への支援内容を検討していきます。

・ケース会が必要な場合は臨時に支援委員会をもち、会の進行を行います。

２　学校公開時における特別支援教育の説明会実施

〇巡回指導学級の児童の満足度調査

・６月中に通級満足度調査用紙の作成をコーディネーターと通級指導担当で内容の検討を行い、実施をします。

・満足度調査の結果、低かった項目について児童への聞き取りを行います。

・８月までに、児童の聞き取りの結果をもとに特別支援委員会で解決策を練っていきます。」

・２学期の心理士の来校日に通級指導担当・専門員・コーディネーターで通級やエンカレッジルームでの指導方法の検討を行います。

〇エンカレッジルームの目的に関する質問理解度１００％

・エンカレッジルームの目的や利用方法、特別支援専門員について学校便り７月号に掲載します。

・教室の目的や利用方法について児童に分かりやすい言葉での掲示物の作成を行ういます。（２学期中）

・教室の目的や利用方法について児童へ朝会でのお知らせを行います。（掲示物と同時に）

・３学期の学校公開時に特別支援教育・エンカレッジルームについての説明会を管理職、コーディネーター、通級担当、専門員、心理士で内容を検討し、説明を行います。

経営視点７

ｵﾘﾊﾟﾗ教育の推進

□取組指標

○　「オリンピック・パリンピック教育レガシー創造プラン」の確実な実施

○　オリンピック・パリンピックコーナーの更新を月１回とする

■成果指標

○校内調査

・「人の役に立ちたい」

・「地域をよくしたい」

・「将来の夢や希望をもっている」

・「失敗を恐れずに挑戦する」

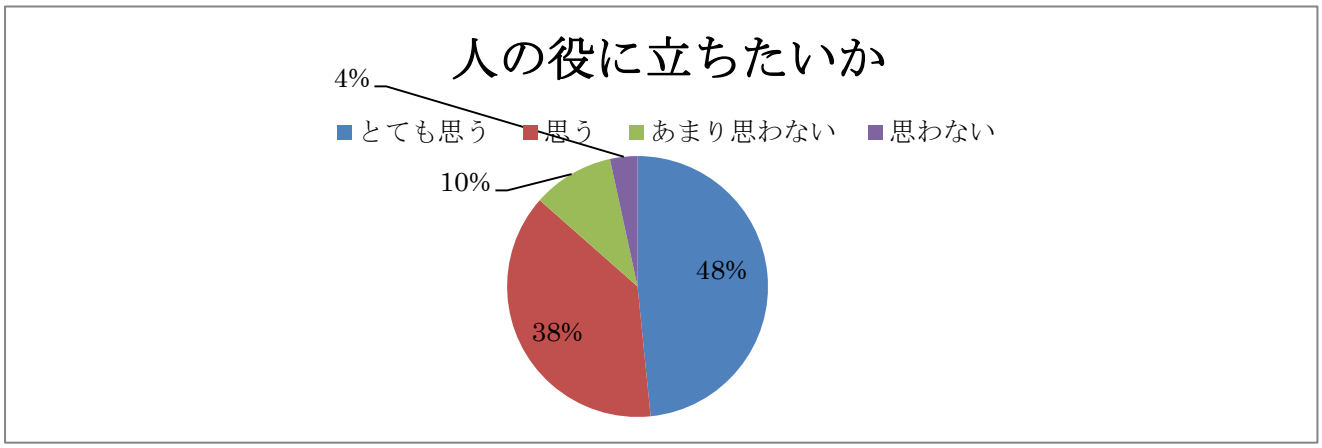
・「物事をやりとげ、うれしい」

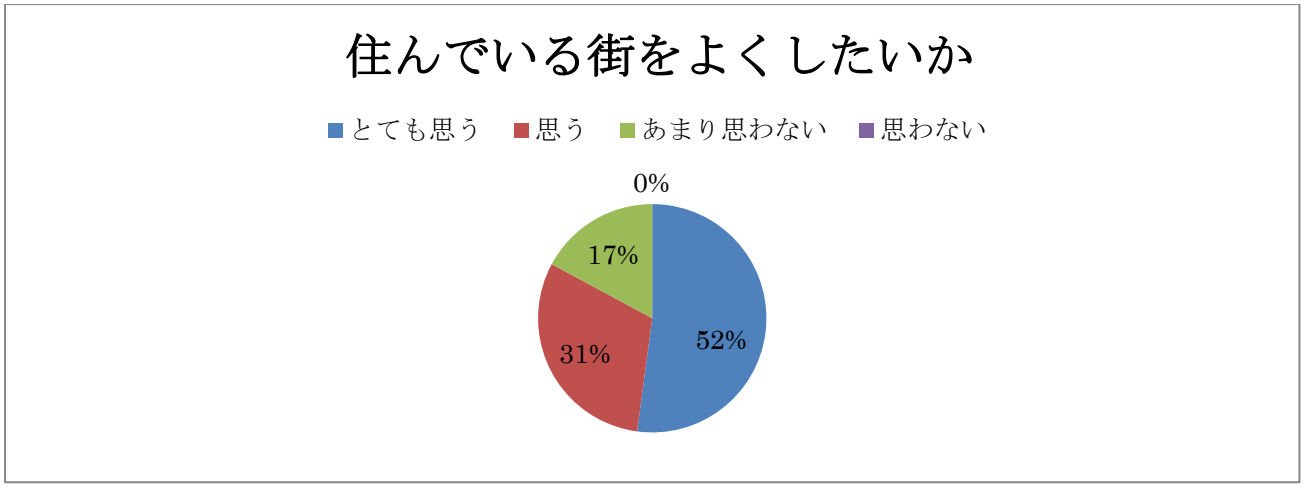
　の肯定的回答率を全項目９割以上

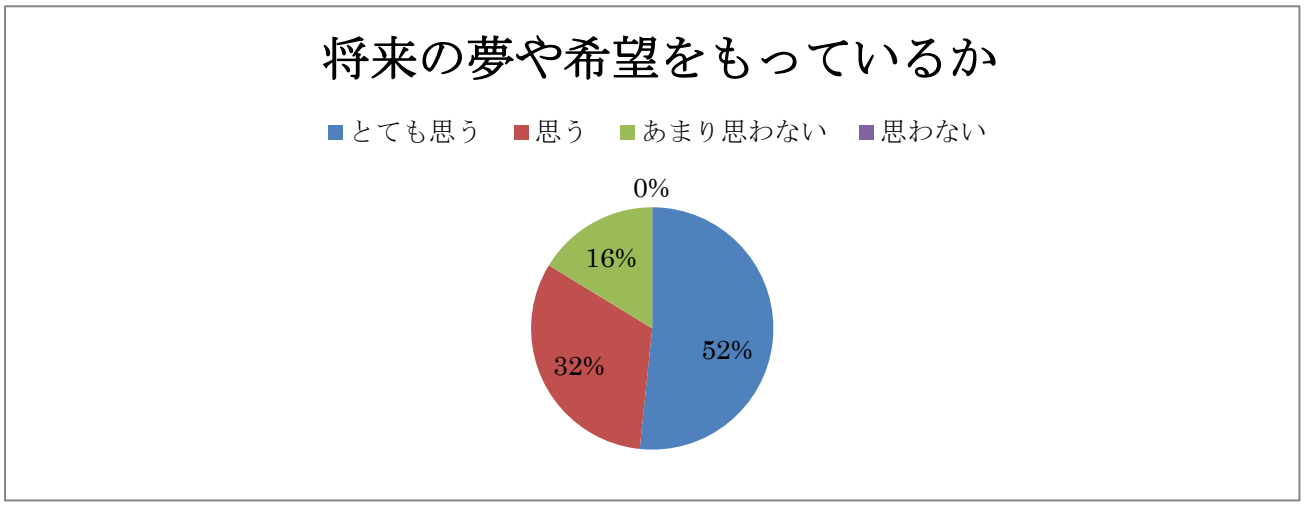
現状分析と具体的改善の方策

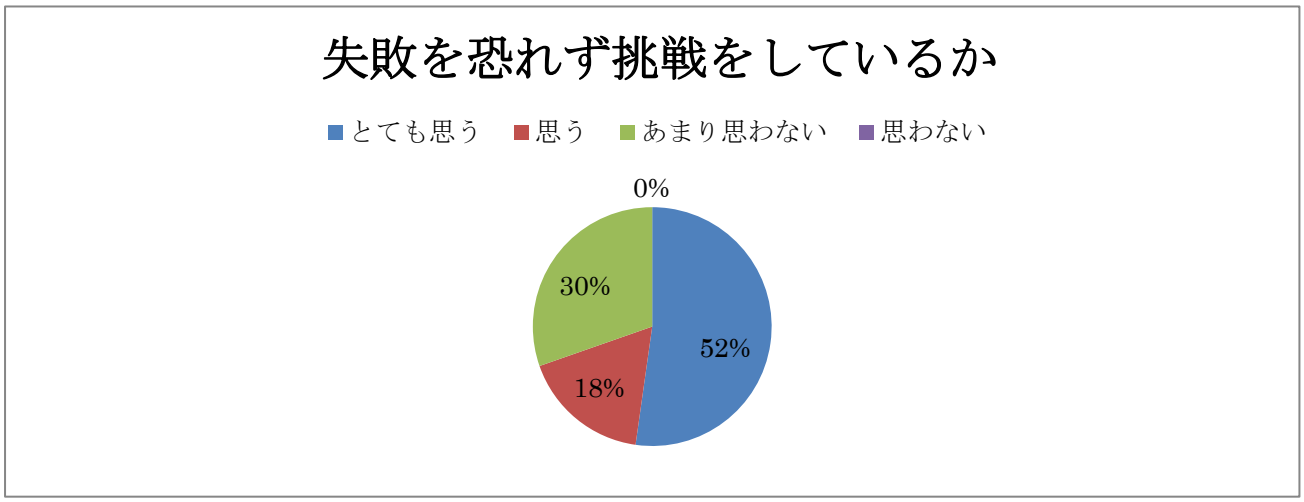
【現状分析】

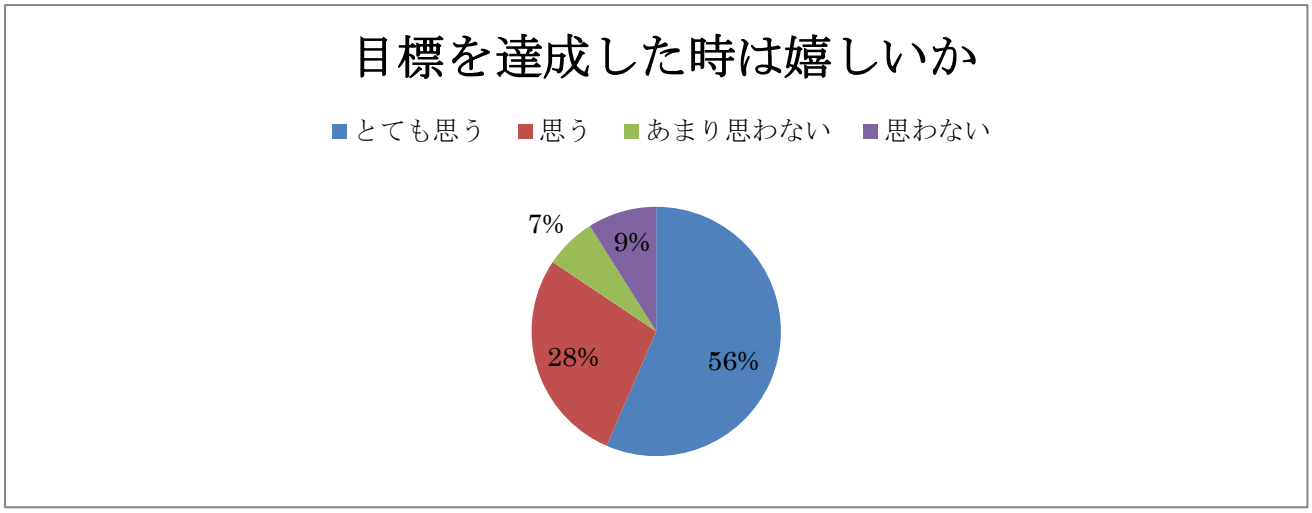
○校内調査




住んでいる街をよくしたいか
とても思う
思う
あまり思わない
思わない
0%
17%
31%
52%


将来の夢や希望をもっているか
とても思う
思う
あまり思わない
思わない
0%
16%
32%
52%


失敗を恐れず挑戦をしているか
とても思う
思う
あまり思わない
思わない
0%
30%
18%
52%



どの項目とも数値が高く、今後もこの数値が維持できるよう指導していく。

【改善の方策】

〇ｵﾘﾊﾟﾗの講演会の実施

６月１４日にバドミントンの選手を呼び、児童の関心を高め 2020 年東京オリンピックパラリンピックにつなげていく。

〇水泳大会（9 月 3 日）や運動会（9 月 29 日）や体育大会（10 月 19 日）に全校体制で積極的に取り組んでいく。

〇児童アンケートを実施

3 学期に児童アンケートを実施し、1 年間の総括をし、新年度に引き継いでいく。

経営視点９

小中連携

□取組指標

○　連携プログラムの徹底的なの確実な実施

○　英語カリキュラム連携の検討

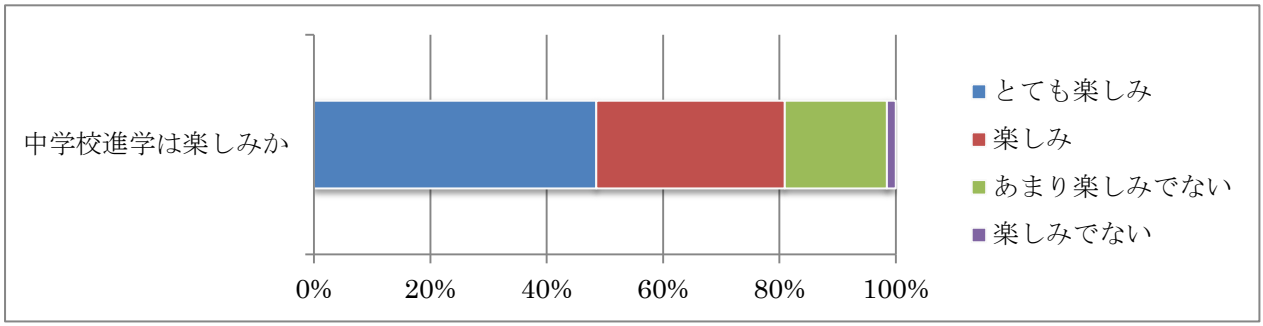
■成果指標

○中学校進学にかかわる児童の肯定的回答率９割以上

現状分析と具体的改善の方策

【現状分析】

○・中学校進学にかかわる児童の肯定的回答率



目標値に１０ポイント低く、学級指導等いろいろな場を設けて児童に働きかけ、目標値に近づけていく。

【改善の方策】

○小中連携教育の日の取り組み

6 月 27 日（小松川 3 中）授業参観し、今年度の方針を確認していく。2 学期には 1 月 13 日（荒川河川敷)）小松川平井地区マラソン大会への参加を児童に促していく。3 学期 2 月 27 日（平井小）授業参観をして小中の連携を深めていく。

○相互参観

6 月 1 日（小松川 3 中）道徳の模範授業を参観や、時期未定ですが、小松川第三中学校英語科教員による授業講習や給食の 3 校共通献立の実施することにより、親睦を深め、中学校への印象を良くしていく。

○チャレンジ・ザ・ドリームの受け入れ

中学 2 年生の社会的職業体験「チャレンジ・ザ・ドリーム」を受け入れ、中学生と 6 年生が交流することで中学校への理解が深まるよう指導していく。